

なるほど油防除資機材！！

～その6 排水溝等に流入した油の防除清掃法～

陸上の燃料タンクや工場等から油が漏れ、排水溝や暗渠を通過して海や川に流出するという事故が発生しています。事故発生から時間が経過し、既に排水溝や暗渠の出口から川や海等に油が流出している場合でも、排水溝内や暗渠に油が滞留していて、いつまでも油流出が続く恐れもあります。このような事故の場合は流出元からの油流出をくい止めるのと同時に、排水溝内や暗渠の清掃が必要です。

排水溝等に流れ込んだ油の清掃には、長くても軽量で扱いやすく、必要な長さに切ることもできる吹流し型油吸着材や長尺型油吸着マット等を使用します。陸上のタンクから流出する油は粘度が低い軽油やA重油である場合が多いと推定されますが、高粘度のC重油が流出した場合にも吹流し型油吸着材は有効です。また、流れのある排水溝等でもこれらの資機材は使用可能です。



吹流し型油吸着材



長尺型油吸着マット

清掃するには図1のように、適当な長さに切った吸着材の一方を人が保持するか何かに縛って固定し、これを排水溝等に流し込み、流出油を吸着させます。片方を固定しているので流速が速くても吸着材が流れて見失うような事はなく、油吸着後の資機材も簡単に回収できます。そして排水溝等の出口には吹き流し型油吸着材、長尺型油吸着マットまたは油回収ネット等を展張し、汚染の拡大を防ぎます。

シート型の油吸着マットを暗渠のある排水溝に投げ入れると油吸着マットが暗渠に入り込み、どこかに引っかかれば回収できずに二次汚染源となる恐れがあるので使ってはいけません。暗渠のある排水溝で油吸着材を使用する場合には必ず回収できるように片側を保持したまま使用しましょう。

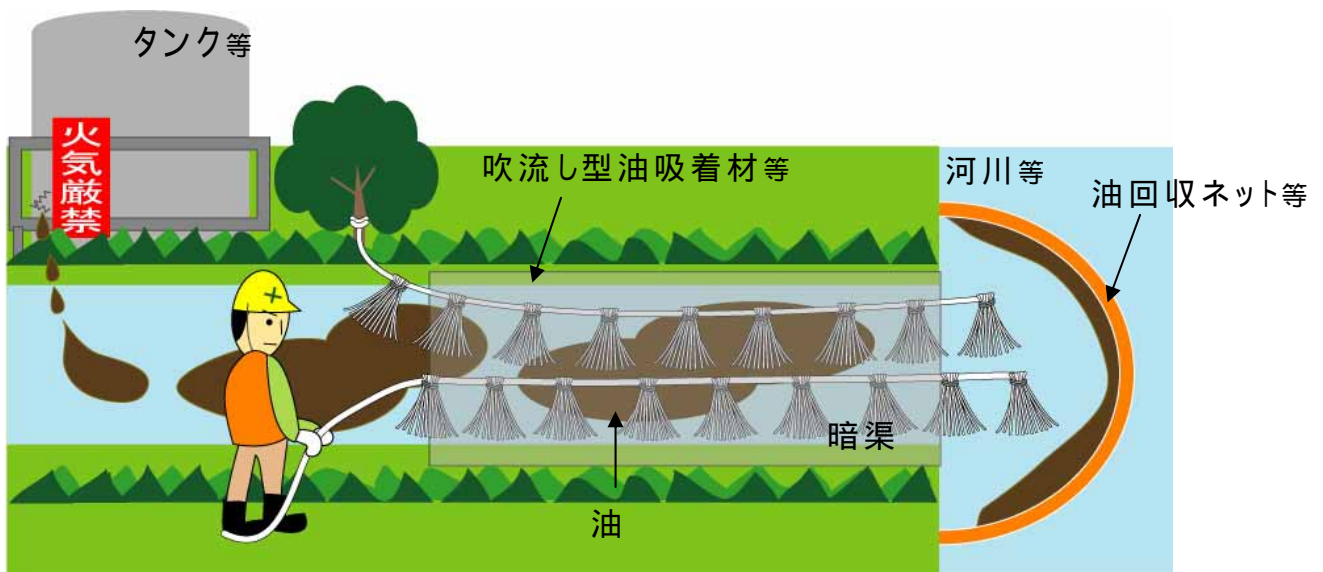


図 1 排水溝や暗渠に油が流入した場合の防除清掃方法

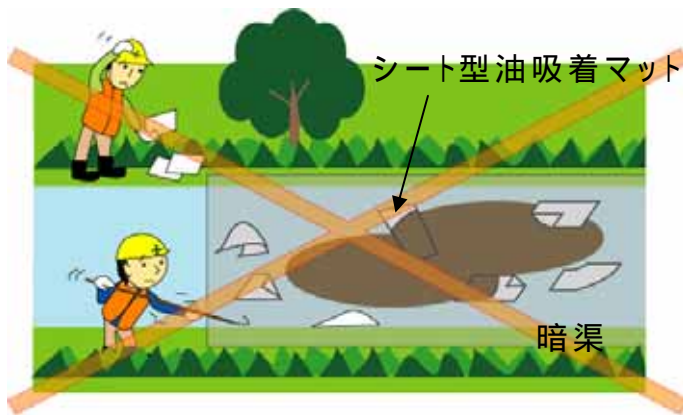


図 2 暗渠に入り込んだシート型油吸着マットは回収が困難

また、ガソリン等の引火性油が暗渠に流入した場合には、爆発や吸引による健康被害に充分注意しながら消防ポンプ等で放水し、暗渠の油を追い出して引火性ガスが溜まらないようにします。更に、出口に展張した吹き流し型吸着材、長尺型油吸着マット、油回収ネット等で回収するか放水してガスの発散を促進します（図 3）。

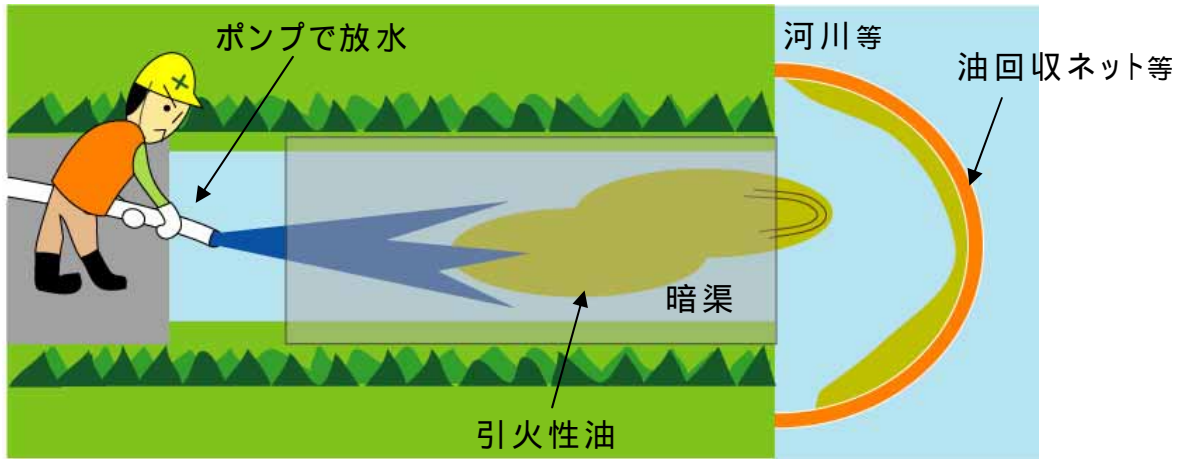


図3 引火性油が排水溝や暗渠に流出した場合の防除清掃方法

排水溝等の海に近いところでは、干満の影響により油が逆流する危険がある事を考慮する必要もあります。油流出事故では、どのような場合でも発生初期における適切な対応が重要です。油流出を発見した場合には、焦らずに漏れ出た油の量や種類を把握し、無理のない方法を考え防除清掃に取り組んで下さい。